

ウラジオストクの日本語学習者の学習意欲  
ー学習意欲の維持に向けた学生文化活動の地域サポートー

坂本 裕子

1. はじめに

ウラジオストクは1860年に開かれ、当時は日本からも多くの人々がわたり日本人街が形成された。戦後も日本人が街の建設に携わるなど、ロシアの中でも日本との深いかわりを持つ。現在の極東国立総合大学の前身である東洋学大学は、1899年に開設され、当初から日本学部が設置されていて、ロシアの中でも親日家が多いといわれている。このように日本に関心を持つ人が多い土壌の中で、着物、武道、生け花などの伝統文化や自動車への関心から日本語を学習する学習者は依然として多い。このような地理的要素と歴史的背景に加え、現在では経済交流の拡大が日本語学習の動機となっているほか、新しい傾向として、アニメや漫画、ゲーム、ファッションといった、新しい文化も日本語学習への動機となっている。

ウラジオストクはかつて軍港として発展してきたが、軍備縮小とともにアジア、ヨーロッパからの船舶が往来する貿易港へと姿を変え、現代、人口の6割が学生という学園都市となっている。2012年のAPEC開催を控え、外国語教育は英語教育を中心に拡大し、2007年に極東国立総合大学内に孔子学院が設置され、2008年には市内にアテネ・フランセが設立されている。高等教育では、アメリカビザの取得が以前より容易になったことにより、長期休暇を利用し訪米する大学生も増えている<sup>(1)</sup>。2008年度より、全国統一試験となった大学入学試験でも外国語科目として英語を選択する学生が多い。大学の卒業試験で英語科目の評価比率も高まり、英語重視の傾向は就職にも影響している<sup>(2)</sup>。(海外職業訓練協会 HP: 15-16)

この大学は日本語教育面では、ロシアの日本学・日本研究の拠点の1つであり、2007年10月現在、約2000名が、シュコーラや大学、日本センターなどで日本語を学習する<sup>(3)</sup>。最近では、日本の姉妹都市が行う文化交流事業や主に児童生徒が中心に参加する民間のホームステイプログラムなどにより、訪日経験を持つ学生も増えている<sup>(4)</sup>。これに加え、ロシアの急激な経済成長も追い風となり、私費で日本短期留学をする学生も少しずつではあるが確実に増え始めている。以前から成人の日本語教育も盛んに行われ、ビジネスマンが会社帰りに外国語学校で外国語を学んだり、家庭教師について学んだりしていた (Sergey: 98-99)。最近の新しい傾向として、児童・初等教育での日本語教育が活発になり、シュコーラやギムナジア<sup>(5)</sup>でも日本語教育が行われるようになっただけでなく、外国語専門の塾や私設の外国語学校、児童クラブ、市の児童館などで、子どもに対する教育が行われ、外国語教育の裾野が拡大している<sup>(6)</sup>。

## 2. 先行研究と本稿の目的

木谷（1999）は、極東3大学において、極東国立総合大学、極東国立人文大学、ユジノサハリンスク国立教育大学の大学生195名を対象に、言語学習観の調査を行っている。その結果から、極東ロシアの学生について言語学習観の特徴などを次のように指摘している。

- ① 教師主導の授業に慣れており、教師依存的な傾向が見られる。
- ② 言語学習者としての自律性が必ずしも高くなく、特に自己モニターの習慣はあまり確立していない。教師からのフィードバックや評価に頼るところが大きい。
- ③ 自国の教授法や教師を信頼しており、それが外国語習得に対する自信の根源にある。
- ④ 文法や翻訳の学習が言語学習の最重要部分だと考える傾向が強い。また「話す」より「読む・書く」のほうが易しいと感じている傾向が見られる。
- ⑤ 間違いや誤りに対する寛容度は比較的高く、コミュニケーション重視の教室活動にも積極的に参加できる可能性が感じられる。
- ⑥ 地理的特殊性から日本社会との経済的関係の発展に大きく期待を寄せており、日本語習得はその重要な足がかりになると考えている。（木谷1999：105-106）

実際にロシア人教師からも指摘されることであるが、丁寧な指導をする教師とそれを待っている学習者という関係を強く感じる。それも、そのようなサポートが要求されるシュコーラでは、教師が足りず、教師人材の育成ができていないことから、より自律した学習が要求される大学で、教師による手取り足取りの指導が行われていると感じられる。

同時に、大学で教える日本語教師からは、学習意欲の低下が指摘され、大学入学時には日本語学習に意欲を持っていても、5年間の日本語学習の課程で、日本語の学習をあきらめてしまうケースもみられると言われている。近年、私費学生の比率が増え<sup>17)</sup>、中には大学進学や学科選択の動機を持たず、日本語学習に興味を持たないばかりでなく、他の学生の意欲をも減退させることさえある。このような状況は、大学だけでなくシュコーラでも起こっており、日本語の学習意欲低下に加え、生徒を学習に集中させることが難しく、教室をコントロールできず、生徒が学習からどんどん離れていってしまうという状況にある。

一方、教師に関して、ウラジオストクには日本語教育機関が多いにもかかわらず、現地教師間の交流が少なく、機関の間の壁が高いことが問題とされてきた。また、現地教師がなかなか日本での研修を受ける機会が得られず、自身の語学力に不安を感じたり、教材の選定や教授法に悩む中で、ホームステイ、交流プログラムの訪日を経験した生徒や学生が教師の日本語や日本文化に対する知識をうたがうようなケースも起こったりして、焦りを募らせている教師もいる。しかも、それぞれに抱える問題を共有する場を持たず、情報を欲しながらもその壁の高さに一步を踏み出すきっかけを持たずにいる状況にある。

ロシアでの外国語の教育は、単に外国語の習熟と外国の文化、科学技術などの摂取のみならず、

資質教育としての役割も担っている。それは、ロシアの歴史の中で、人材こそが国の発展と国際社会での地位を確立し、国際協力に貢献しうるものと認識されたからであろう。ロシアでは人間を中心とした教育が行われ、外国語教育においても、外国語を通して素養を高めるため、学習者の心理特性、意思形成、文化的発達にも配慮が払われている (Lyudmila1996 : 87)。

以上の状況を踏まえて、学習者の自律学習と同時に、自主的な活動が起こり、教師間の交流が持たれるための、一層充実した教育環境が構築されるには、どのようなことができるのか。学習者の学習意欲という側面から解決の糸口を探ることにする。

### 3. 研究内容

意欲とは、ある目的や目標に対し、積極的な意志を持つ働きにより、その目的や目標を達成しようとする心の状態を言う。学習意欲は自発的・能動的に何かを学び取ろうとする気持ち、態度や傾向と捉えていいだろう (『教育心理学小事典』など)。また、学習意欲は「学習への興味、知的好奇心」、「達成動機、向上心、価値志向性」、「有能感、効力感、自信」、「自発、自主自律性」、「失敗回避動機・テスト不安」、「持続、忍耐力」という要因で構成される。学習意欲を客観的に測定することは難しいとされるが、学習意欲の評価法については、

学習意欲の評価は、これらの特性およびその構造に基づいてなされるものであるが、具体的方法としては、授業中の態度、家庭学習の態度など、行動や習慣面に対する評定や前期の諸特性について質問紙による測定などが考えられる。(『現代教育評価事典』)

と述べられている。また、学習意欲を2つの水準で区別しなければならないと述べる下山(1985)は、その2つの水準を、ある状況において一次的に喚起される水準の「状況的意欲<sup>10)</sup>」と、特定の状況と関係なく比較的一貫し、持続している水準の「特性的意欲<sup>11)</sup>」であるとしている。両者の意欲は、必ずしもまったく独立したものというのではなく、かなり密接に関連しあうものである(下山 1985 : 5)とされ、状況により一時的に強くなる状況的意欲が、持続的な意欲に転化する可能性も示唆されている。

本稿では、学習者の学習意欲をテーマに、ロシア人学習者が意欲的になる状況の概要をつかむための客観式調査、具体的には、意欲的になる状況や日本語学習への興味、教師や教授法に関する質的調査を行い、ロシア人学習者の学習意欲の状況、学習の趣向性を考察する。また、先に筆者が中国で行った調査とも結果を比較して考察する。

#### 3.1 調査 I

【調査目的】 ロシアで日本語を学ぶ生徒、大学生を対象に、「特性的意欲」、「状況的意欲」などの学習意欲構成要因の具体的な状況の把握。

2003年に実施した中国での調査の結果と比較し、特徴を考える。

【調査紙の作成】 どのような状況で学習者の意欲が高まるのかを知るため、国立教育政策研究所（2002）の日本国内の小・中・高校生を対象にした学習意欲に関する調査を参照した。その研究の調査結果から、漠然としていて体系がつかみにくいと考えられる、意欲が向上したり低下したりする場面や状況の傾向などを知ることができ、調査紙項目にある具体的状況が海外で日本語を学習する際にも起こりうるものであると判断した。そこで、本調査では、客観式の調査の方法と項目を使用し、学習意欲の状況的要因として位置づける。先述の研究では、日本国内の小・中・高校生が対象であり、本調査ではロシアと中国の大学生も対象となることを考慮し、一部に修正点を加えた<sup>40</sup>。またバックトランスレーションによるロシア語、中国語翻訳を使用した。

【調査期間・調査対象】 ( ) 内は調査実施時期

ロシア：第 51 番学校<sup>40</sup>（2007 年 5 月 18 日～2007 年 6 月 15 日）

極東国立総合大学<sup>40</sup>（2007 年 5 月 21 日～6 月 20 日）

中国：南京外国語学校<sup>40</sup>（2003 年 9 月 16 日～9 月 19 日）

南京師範大学<sup>40</sup>（2003 年 9 月 16 日～19 日）

【調査結果】

①意欲が向上する状況

表 1 第 51 番学校（ロシア）

状況	度数	平均値
授業がおもしろい	116	3.66
将来就きたい職業に関心	115	3.63
授業がよく分かる	118	3.55
先生にほめられた	118	3.47
自分の成績が友達よりいい	118	3.44

表 2 南京外国語学校（中国）

状況	度数	平均値
授業がおもしろい	45	3.84
日本語能力試験等の受験、資格取得	42	3.79
将来就きたい職業に関心	44	3.70
将来行きたい学校が決まる	44	3.66
先生にほめられた	45	3.64

表 1、2 より、上位に共通しているのは、授業がおもしろいとき、将来就きたい職業に関心を持ったとき、先生にほめられたときである。中国の生徒は、資格取得や将来に関する項目が上位になっているが、ロシアの生徒では、授業がおもしろい、よく分かる、友達より成績がよかったり、教師にほめられたりする状況を挙げている。中国の生徒にとっては、自身の未来や将来像が意欲の向上に影響を与え、ロシアの学生には、授業の魅力や他者からの評価が意欲向上にかかわると考えられる。

表 3 極東国立総合大学（ロシア）

状況	度数	平均値
授業がおもしろい	115	3.74

表 4 南京師範大学（中国）

状況	度数	平均値
日本語能力試験等の受験、資格取得	75	3.81

将来就きたい職業に関心	112	3.71	将来就きたい職業に関心	74	3.80
日本語能力試験等の受験、資格取得	110	3.57	将来行きたい学校が決まる	73	3.70
先生にほめられた	112	3.54	授業がおもしろい	75	3.69
先生に励まされた	114	3.52	先生に励まされた	73	3.68
授業がよく分かる	116	3.52			

表 3、4 によって、共通するのは、将来や資格に関する項目が入っていることである。また授業がおもしろいとき、教師にほめられたり、励まされたりする状況である。僅差ではあるが、中国では、将来に関する項目が授業のおもしろさの項目より高いのに対し、ロシアでは、授業のおもしろさが将来に関する項目より高い。中国でもロシアでも、日本語を学習する理由を聞くと「日本に関する仕事や日本語を使う仕事がしたい」という答えがまず返ってくるのだが、現実に関心する仕事や日本語を使う仕事に就けるチャンスは、中国のほうがはるかに多い。日本企業の中国進出、日本相手のビジネス、あるいは日本への渡航を考えても、中国のほうが格段に恵まれている。そのため、ロシアでは、将来のことを考えることが直接的に学習意欲につながるというより、授業の内容のおもしろさが高くなったと考えられる。

## ②意欲が減退する状況

表 5 第 51 番学校（ロシア）

状況	度数	平均値
授業がつまらない	117	2.01
先生に叱られた	118	2.25
友達にけなされた	118	2.56
自然に触れる体験をした	117	2.62
授業がよく分からない	118	2.63

表 6 南京外国語学校（中国）

状況	度数	平均値
授業がつまらない	45	2.07
友達にけなされた	44	2.59
先生に叱られた	45	2.62
授業がよく分からない	45	2.67
成績が下がった	45	3.00

表 5、6 から、ロシアの生徒も中国の生徒も、授業がつまらない、授業がわからないという項目を挙げていることから、授業の魅力の意欲とのかかわりの深さがうかがえる。さらに、「友人にけなされる」、「教師にしかられる」という他者からのマイナス評価も意欲の減退にかかわると考えられる。

表 7 極東国立総合大学

状況	度数	平均値
授業がつまらない	113	1.76
先生に叱られた	114	2.32

表 8 南京師範大学

状況	度数	平均値
授業がつまらない	75	1.97
授業がよく分からない	75	2.52

授業がよく分からない	113	2.36	先生に叱られた	73	2.63
自然に触れる体験をした	105	2.62	成績が下がった	73	3.05
友達にけなされた	103	2.65	友達にけなされた	72	3.14

表7、8から、意欲が減退するのは、授業がつまらない、分からないとき、また教師に注意されたり、友人にけなされたりする状況である。ロシアの学生と中国の学生で異なるのは、中国の学生では、成績の低下で意欲が減退しやすいことである。つまり、中国の学生の学習への意欲は、試験の結果、評価に左右されやすい。意欲がわく上位項目に成績の向上がなく、代わりに教師からの賞賛や激励が入っていることから、成績の向上が直接意欲向上につながるというよりは、教師からの賞賛や激励のほうが意欲の向上につながり、教師からの叱責や成績の低下は意欲減退につながると考えることができる。

一方、ロシアの学生に見られるのが、「自然に触れる体験をしたとき」である。これは、ロシアの学校生徒にも見られた結果であり、中国の学校生徒大学生には見られなかった。ロシア人は自然に触れることを好み、夏休みや冬休みなどの長期休暇には、基本的には宿題を出さず、しっかりと休む。ロシア人は森の住人とも言われるほど、自然を好み、学校の長期休暇時には、児童クラブや学童保育所、さまざまなクラブが主催するキャンプやネイチャーツアーなどに参加する。週末などにも家族や友人と森や山、海などへ行き、自然と親しみ、授業などで、自然と触れる体験をすることは、学習に向かうというより、リフレッシュしたり休息したりするというイメージになることが考えられる。

以上がロシアと中国の生徒、大学生の意欲のわく状況、意欲の減退する状況を考察した。

その結果、上位に挙がっている項目はほぼ共通であり、意欲がわきやすいのは授業がおもしろいとき、意欲が減退しやすいのは授業がつまらないときであった。しかし、中国の学習者のほうが、将来に興味を持ったときに意欲がわきやすく、ロシアの学習者では、授業のおもしろさや教師、友人など他者から評価されることで意欲的になる。意欲が低下する状況でも、中国の学習者では、成績の低下で意欲が減退しやすく、ロシアの学生では、教師に叱られる状況で意欲が低下しやすい上、自然に触れる体験をしたときにも意欲が低下しやすい。これは、日本や日本語に関する職業に就く機会に恵まれている中国の背景に関連していると考えられる<sup>4)</sup>。ロシア同様、日本や日本語に関する職業に就く機会が少ない場合、将来への関心は直接日本語の学習意欲にはつながりにくいことも考えられる。また、中国では、目に見える形での成績の低下で意欲を喪失しやすいが、教師の激励や賞賛で意欲が高まりやすい。

まとめると、ロシア、中国ともに、授業のおもしろさ、将来への関心、教師の賞賛や激励が意欲を高め、授業がつまらない、分からない、教師が注意したり、友人がけなすという状況で意欲が減退しやすいと考えられる。授業のおもしろさと教師や友人のかかわりが学習意欲に関係する。

## 3.2 質的調査

3.1 の調査 I の結果から、学習に対し意欲的になりやすいのは授業がおもしろいときであり、意欲が減退しやすいのは、授業がつまらない、わからないときであることが指摘できる。ロシア人学習者にとって、おもしろい授業、つまらない授業とはどんな授業なのか、賞賛や激励はどんなことに対して行われたか、さらに詳しい個人的要因を知ることが目的に半構造化インタビュー調査を行った。

【調査対象・調査期間】 ( ) 内は調査実施期間

極東国立総合大学<sup>08</sup> (2007年12月11日、18日)

第51番学校<sup>09</sup> (12月8日、14日)

【インタビューでの質問項目】

①今までの好きな学習 ②今までの嫌いな学習 ③日本語選択理由 ④日本への興味 ⑤現在の日本語学習の状況 ⑥楽しい授業 ⑦おもしろい授業 ⑧つまらない授業 ⑨好きな日本語学習 ⑩楽しい日本語学習 ⑪おもしろい日本語学習 ⑫つまらない日本語学習 ⑬学習に興味を持った時 ⑭学習に意欲的になった時 ⑮学習への意欲が減退した時 ⑯楽しい日本語学習、⑰おもしろい日本語学習、⑱つまらない日本語学習

インタビューで得られた回答は、キーワードをカードに記入、項目ごとに分類を行った後、再度、項目の枠を越え分類し直した。

以下は、日本語に関する調査結果である。( )内の数値は回答数である<sup>08</sup>。

【日本語選択の理由】

学校生徒(14):「日本が好きだ・日本に興味を持っている(4)」、「親に勧められた・親の希望(4)」、  
ついで、「日本語が好きだ(2)」、「日本に行きたい(2)」、「学校が近い(1)」、「将来役に立つ(1)」

大学生(17):「家族に勧められた・家族の仕事が日本に関係する(5)」、「日本に行ったことがある・日本に興味を持っている(2)」、「教師や友人に勧められた(2)」、「日本に行きたい(2)」、「学校が近い(2)」、「将来役に立つ(2)」、「難しいことが好きで、日本語は難しいと思った(1)」、「分からない(1)」

日本語の選択に関して、学校生徒、大学生ともに家族からの影響を受けていることが分かる。他者から動機づけられている場合、学習意欲の維持は難しい。学習意欲を維持させるためには、自身の中に動機を持たせるようにすることが望ましい。それには、日本や日本語学習に興味を持たせ、自身から進んで「日本を知りたい」、「日本語を学びたい」と思わせることが重要である。それでは、ロシア人学習者の日本への興味や関心はどこに向いているのか。

【日本に関する興味】

学校生徒(22):「伝統文化(着物、折り紙など)が好きだ(6)」、「日本を訪ねたい(4)」、「日本人に会いたい・日本人と交流したい(3)」、「食文化に興味がある(2)」、「桜が好き(1)」、「店が多く、

商品も多い(1)」、「辞書を見て、新しい言葉を知ることが好き(1)」、「日本の音楽が好き(1)」、「日本の歴史が好き(1)」、「新しい技術に興味がある(1)」、「日本は遠いイメージ(1)」

大学生(9)：「日本人の生活や考え方を知りたい(2)」、「日本はきれいだ(2)」、「経済に関心(2)」、「日本文化や漢字が好きだ(2)」、「食文化に興味がある(1)」

興味や関心は、個人的要素が大きい。ここに挙がっているように、多様であるからこそ、さまざまな切り口を紹介することにより、より多くの学習者に興味や関心をもたせることができるだろう。学習者が日本語学習に意欲的になるのはどのようなときか。

#### 【日本語学習に意欲的になるとき】

学校生徒(10)：「成績がいいとき(2)」、「テーマがおもしろいとき(2)」、「通訳になりたいと思ったとき(1)」、「ほめられたとき(1)」、「親を喜ばせたいとき(1)」、「日本人や日本人教師とコミュニケーションをするとき(1)」、「日本人とコミュニケーションして、分からないことがあるとき(1)」、「ない(2)」

大学生(10)：「日本に行ったとき・行きたいと思うとき(5)」、「知識が足りないと思ったとき(2)」、「試験のとき(1)」、「日本人とコミュニケーションして、分からないことがあるとき(1)」、「いつも(2)」

#### 【日本語学習をしたくないとき】

学校生徒(8)：「ない・いつも勉強したい(6)」、「できないことがあるとき(1)」、「他の生徒がうるさいとき(1)」

大学生(12)：「ない・あまりない(6)」、「課題や試験が難しいとき(3)」、「他の科目(英語)の成績が悪かったとき(1)」、「病気で休学したら、授業についていけなくなっていた(1)」、「親の仕事が変わって、日本語が必要でなくなったとき(1)」

対象者は、日本語学習への意欲を失いにくいことが伺える。しかし、大学生の回答に見られるように、親の仕事や社会情勢の変化は、学習者の意欲にも影響すると考えられる。すなわち、社会で日本語の需要が低くなれば、子どもに日本語を学ばせようとする親も減り、途中で、他の言語やスキルに興味や意欲が移行することも考えられる。なお、自身の力不足が自覚される状況で意欲的になるというのは、量的調査の結果と一致する。このような学習者におもしろいととらえられている授業はどのような授業なのか。

#### 【おもしろい・楽しい日本語の授業】

学校生徒(15)：「日本人教師の授業(6)」、「ロシア人教師の授業(2)」、「聴解(2)」、「難しい課題など(2)」、「日本との交流(1)」、「暗記を発表する(1)」、「全部(1)」

大学生(9)：「日本人教師の授業・日本人の会話の授業(7)」、「ロシア人教師の会話の授業(2)」

#### 【つまらない日本語の授業】

学校生徒(8)：「ない・全部いい(5)」、「書くことが多い(2)」、「一人で問題を解く(1)」

大学生(8)：「ない(5)」、「経済・マーケティング(2)」、「翻訳(1)」、「ルールだけ教える(1)」

「おもしろい日本語の授業」では、ネイティブである日本人教師の授業が多く上がったが、ロシア人教師による授業もおもしろいと受け止められている。会話の授業や交流などが上がったことで、言語を知識として学ぶだけでなく、運用することにおもしろさ、楽しさの要素があると考えられる。また、この結果から、教師や教授法が大きく影響を与えていることも伺える。

そこで、日本語以外の科目も含め、教師や教授法の影響を調べてまとめる。

【教師・教授法に関する回答】 ( )内は、質問項目と回答の科目・分類

---

プラス効果

- 
- ・ 英語教師が外国語に向いているとってくれた (今までで好きな学習 英語)
  - ・ ほめられたとき (日本語学習に興味を持ったとき・日本語学習に意欲的になるとき)
  - ・ 教師がとてもおもしろい、いい教師 (楽しい・おもしろい授業 ロシア文学)
  - ・ 学校で日本語を勉強したとき、好きな教師の授業はいつもおもしろかった (楽しい・おもしろい授業 好きな教師の授業)
- 
- ・ 日本人教師の授業は、全部は理解できないが、やり方がおもしろい (楽しい・おもしろい授業 日本語)
  - ・ 日本人教師のおかげで金曜日は楽しい (楽しい・おもしろい授業 日本語)
  - ・ 日本人教師とロシア人教師は、教え方や例など全部違う。実際に日本人の話しは使うことができる。ロシア人の先生はただ読むだけ。日本では使えない (楽しい・おもしろい授業)
  - ・ 授業中に日本の事実や現在のことを教えてくれる。ロシア人教師でも教えてくれればおもしろい (楽しい・おもしろい授業 日本語)
  - ・ 日本人や日本人教師とコミュニケーションをする (楽しい・おもしろい授業 日本語)日本語学習に意欲的になるとき)
- 
- ・ 書道、歌、すし、着物など日本文化について教えてくれる (楽しい・おもしろい日本語の授業 日本人教師の授業)
  - ・ いつもいろいろな内容がある(楽しい・おもしろい日本語の授業 日本人教師の授業・日本人の会話の授業)
  - ・ いろいろなテーマで話したり、いろいろなシチュエーションで会話を作るのはおもしろい (楽しい・おもしろい日本語の授業 日本人教師の授業・日本人の会話の授業)
  - ・ 折り紙を教えてくれた (楽しい・おもしろい日本語の授業 ロシア人教師の授業)
  - ・ いつもいろいろな新しいことを教えてくれる (楽しい・おもしろい日本語の授業 ロシア人の会話の授業)
- 
- ・ 授業はおもしろくないというのは教師の教え方によって決まる (楽しい・おもしろい授業)
  - ・ 小説の内容を授業中、劇でやらせて、その内容はよく覚えている。教師とグループの生徒と劇場へ行った (楽しい・おもしろい授業 ロシア文学)
-

- 
- ・ 教師が説明する授業が好きだ (楽しい・おもしろい日本語の授業 ロシア人教師の授業)
  - ・ ルールだけでなく、実際の例がたくさんあるとおもしろい (楽しい・おもしろい日本語の授業 日本人教師の授業・日本人の会話の授業)
  - ・ 学生が会話に参加するのはおもしろい (楽しい・おもしろい日本語の授業 日本人教師の授業・日本人の会話の授業、ロシア人の会話の授業)
  - ・ 日本について話してくれたり、写真を見せたりしてくれた (楽しい・おもしろい日本語の授業 ロシア人教師の授業)
- 

#### マイナス効果

---

- ・ 教師が嫌いだった (つまらない授業 化学)
  - ・ 教師といつもけんかになった (今までで嫌いな学習 化学)
  - ・ 教師が厳しすぎる (つまらない授業 経済・マーケティング、今までで嫌いな学習 ある教師の授業)
  - ・ 他の人の宿題を写しても、同じ評価 (つまらない授業 地理)
- 
- ・ 宿題が簡単 (つまらない授業 地理)
  - ・ テキストや課題が難しすぎる (日本語学習をしたくないとき、つまらない日本語の授業 翻訳)
  - ・ 課題が多く、調べても分からない (つまらない授業 経済・マーケティング)
  - ・ 宿題をたくさんするのは好きではない (つまらない授業 数学)
- 
- ・ 座って描くだけ (つまらない授業 図画工作)
  - ・ 地図を書いて出すだけで、課題が多過ぎる (つまらない授業 地理)
  - ・ たくさん体操してジョギングをしてまた体操をして、全然休憩がない (今までで嫌いな学習 体育)
  - ・ 教師の講義が少なく、家で本を読んでレポートを書く (つまらない授業 経済・マーケティング)
  - ・ ルールだけ教える (つまらない日本語の授業)
  - ・ 書くことが多い・一人で問題を解く (つまらない日本語の授業)
  - ・ できない生徒に説明させる。いい生徒は何もしないで待っている (つまらない授業 地理)
  - ・ 他の生徒が発言しているとき、自分は何もすることがない (つまらない授業 文学)
  - ・ チームが負けると、そのチーム全員の成績が悪くなる (今までで嫌いな学習 体育)
- 

学習者が成人であっても、教師の言動が学習者に与える影響は大きいと考えられる。ロシアにおいて、教育の重点が人文、教養目的にあることを考慮に入れば、常にそのことに配慮した態度が要求されるだろう。また、全ての学習者と教師の相性がいいことはありえないだろうが、嫌い、けんかになると言うのは、学習者を学習から遠ざける要因となりうる。また、厳しすぎる、逆に曖昧な評価などは、敬遠されると考えられる。

外国語学習者には、目標言語のネイティブ教師はそれだけで高く評価されやすく、ネイティブである日本人教師の影響は大きいと考えられる。ロシアにおける日本語学習者が、なかなか日本

人との接触機会を持っていないことを考えると、目標言語で学習者とコミュニケーションの機会を持つだけで、つまりネイティブであることだけでいいように感じられるが、今村 (1994) に指摘されるように、教師としての専門的な知識と教授法も要求される。実際、ここでの回答にもあるように、ネイティブの発話全てが理解されているわけではない。教授の方法や内容に関し、ネイティブ、ノンネイティブにかかわらず、③の教授内容にも関係するが、日本の事実や現在のこと、いろいろな内容やテーマで会話をさせるなど、教授法や内容を工夫することで、ノンネイティブであっても、学習者に日本語の授業がおもしろいと感じさせることができると思う。ネイティブが会話を担当し、ノンネイティブは知識の教授を行うというパターンではなく、両者が両方を担当できることが理想である。

先にも述べたとおり、学習者が多様な興味や関心をもっていることから、教授内容を多様化させることで、興味や関心を引き出し、おもしろいと感じさせることができるだろう。それには、ネイティブ、ノンネイティブを問わず、さまざまな内容と教授のスタイルを兼ね備えることが要求される。

教授内容に関しては、課題の難易度が問題となっている。動機づけの立場から、学習意欲を考えた場合、「一般に達成動機づけの強いものは、主観的成功確立が 50%程度であると認知する事柄に挑戦する」(『現代教育評価事典』: 448-449) とあるように、課題の難易度への配慮が不可欠である。クラスサイズが大きい場合、個々の学習者のレベルに合わせ、課題の難易度に配慮することは、非常に難しいことではある。家庭学習として課題を与える際にはそうであろう。その場合、課題がさまざまなレベルの学習者にとって、それぞれに達成できうる要素を持つものであればよく、それぞれの学習者に目標とされる項目がクリアされた場合、それぞれのレベルに合わせた評価を行えばいいことになる。しかし、このことは、学習者にとっては、評価の曖昧さと受け止められかねないため、この点に対する配慮も必要となるだろう。

教授法に関して、課題が与えられ、それをこなすだけという活動はマイナスの効果につながりやすい。日本語の教授において、文法のルールだけを教え、パターン練習を繰り返すだけではなく、実際にどのような場面で使用されているのか、学生に考えさせたり、教師が例を出したりすることや、視聴覚教材を活用する、ドラマを作らせることなど、レクチャーと個人での活動、グループやクラス全体での活動がバランスよく組み合わせられるような授業の組立てが必要となるだろう。

#### 4 結論と将来の展望

本研究では、先に行った中国での調査とも比較したが、中国は、2001年のWTO加盟、APEC首脳会議、2008年のオリンピック招致により、外国語教育の急速な発展と拡大を見た。ロシアでも、WTO加盟交渉、2012年ウラジオストク開催のAPEC首脳会議、2014年ソチの冬季オリンピックの

招致、さらに日本も含めた外国企業の各地への誘致など、今後の外国語教育の拡大と発展に同じく大きな影響を及ぼす要素を持つ。

言語学習の動機について、ほとんどすべての学生が日本社会との関係の緊密化を期待し、学生がよい就職のチャンス的手段にするという強い道具的動機を持っているとされてきているが、実際に日本語を専攻した学生が日本語を使う職業に就ける機会は少ない。対日貿易は拡大しているとはいえ、その中心となる中古車の輸入販売では、日常レベルの日本語会話でも通用し、専門的な日本語力は問われない。また、アニメや漫画、ゲーム、ファッションといった切り口からの動機づけは、学習のきっかけ作りには有効であると思われるが、いつまでも学習継続の要素となるか否かは、意見の分かれるところであろう。

本調査の結果から、授業の楽しさ、おもしろさが意欲に影響を与えると考えられたが、授業の内容への興味や関心には個人要因も多く、教師への依存率は高い。調査結果からも、またロシア人教師からも指摘されることであるが、ロシア人学生は全般的に主体的に学習や活動を起こすことが少ない。自身の中に興味を持ち、日本語学習の姿勢をつくることが学習意欲の維持において最も有効であると考えられるが、日本企業関係の就職を希望するという目標がなかなか実現しにくい状況を目の当たりにして、せっかく生まれた興味や関心も維持されにくいと思われる。

日本に強い関心を持つ学生がその思いを実現する場を持たず、意欲を減退させていくという状況に、学生文化活動の地域サポートを行う実践活動を試みたので、本稿の研究内容に合わせた交流の事業の一端としてここに記しておきたい。

2006年に第1回ウラジオストク学生日本文化祭が開催された。第2回となった2007年には、日本からも観客が訪れ交流が行われた。主たる目的は、学生自身が主体となり、日本語学習を通じて得た日本や日本文化に関する知識や情報を学生自身の手で表現することにある。学生間の交流を増やすことから始め、教師間への交流へとつなげていくという目的もある。

その運営に当たっては、各大学から集まった代表が、会場手配、出場者の募集、プログラムやシナリオの作成、教師への審査依頼など全てを行った、2回目には、日本からの観客と交流した。このように、この活動を通じ、現地機関と協力をして、学生同士が仲間として、ライバルとして、留学試験やコンテストに臨もうと新たな日本語学習への目標を見出しただけでなく、将来、教師を目指し、学校などでのアルバイトで日本語を教える学生達が、生徒とともに練習し、発表するという活動も生まれた。

この活動と並行して、ロシア人教師が中心となり、筆者が事務局を担当して、ウラジオストクにゆかりのある与謝野晶子の文学活動に寄せた「与謝野晶子記念文学会」を創設した。この会に参加するロシア人教師、ロシア人日本愛好家が、学生の活動をサポートしている。

学生達は、現地教師、日本人教師はもとより、領事館や日本センター、日本人留学生、在留邦人、日系企業など地域の関係者、機関からのサポートを受けている。始まったばかりの活動には

解決すべき課題も多いが、各機関で抱える学習者の問題を、学生活動を通じて、学生の学習意欲の維持を教師にも及ぼせ、地域全体での協力体制を築く可能性を持つものとする。学生の自主的な活動による刺激が、教師を刺激し、教師同士が自主的に活動する機会が生まれることが、何より重要な課題であり、目標であると言える。

- <sup>(1)</sup>最もポピュラーである『Work & Travel』というプログラムは、2~3ヶ月間、アメリカの家庭にホームステイし、アルバイトをしながら英語を身につけられるというものである。
- <sup>(2)</sup> 極東国立総合大学では、シュコーラ在籍時に英語のコンテスト(筆記や口答試験で構成される)が実施され、そのコンテストで上位に入ると、入学試験や学費の免除といった優遇措置が受けられる。ウラジオストクの大学では英語が必須科目とされ、大学での英語教育も強化されている。そのため、日本語を主専攻としながら、英語の不得手を理由に、転部・転学したり、退学する学生もいる。ウラジオストクの就職事情であるが、『英語プラス他の外国語、あるいはスキル』といった条件が課せられるのが一般的になりつつある。
- <sup>(3)</sup> 2007年10月にウラジオストク日本国総領事館の調査による。(非公開)
- <sup>(4)</sup> 2008年度現在、沿海州及びウラジオストク市と姉妹提携を結ぶ日本の都道府県、都市は、富山県、新潟県、秋田県、函館市である。このほか、JETプログラムなどにより島根県、鳥取県とも盛んに交流が行われる。
- <sup>(5)</sup> シュコーラ、ギムナジアともに、日本の小学校から高等学校相当までの過程の一貫教育を行う機関である。ロシアの義務教育は9年間であり、シュコーラは、義務教育である3年間の初等一般教育と6年間の基礎一般教育、それに加え、3年間の中等一般教育を行う機関である。ロシア帝国時代の中学校の名であるギムナジアは、主として人文、社会科学の科目を専門とし、一般の学校より多くの選択科目を有し、一般の学校であるシュコーラに比べ、教育レベルが高いといわれる。(財団法人海外職業訓練協会 HP p2)
- <sup>(6)</sup> 近年生まれた富裕層がお稽古のひとつとして、子どもたちを音楽教室や体操・ダンス教室と同じように、外国語教室に通わせたり、家庭教師をつけ外国語を習わせたりしていることがある。
- <sup>(7)</sup> ウラジオストクの日本語教育の中核機関である極東国立総合大学では、1993年まで完全無料で行われていた教育も、現在では1学年50名の在籍者数に対し、10名程度が学費免除でその他が有料の学生である。
- <sup>(8)</sup> 下山(1985)では、教師の説明や教材が子どもの興味や好奇心を喚起する場合のように、その時の状況の刺激によってひきおこされるものであり、いかにして子ども達の興味をひきおこし授業に導入するか、どのような教材をどのように与えれば子ども達の学習活動を高めることができるか、などの学習指導上の古くからのテーマは、主としてこの種の学習意欲に関する事柄であると説明される。
- <sup>(9)</sup> 下山(1985)では、個人における比較的固定的、持続的な態度や傾向、あるいは性格特性といえるものであり、一般に、やる気がある子、ない子という場合のように、意欲の個人差を意味するものである。いわゆる「やる気」を育てるには、というようなテーマは、この種の意欲を問題にしているものであると説明される。
- <sup>(10)</sup> 調査紙の修正点：①級や段、資格などを取ろうと思ったとき→日本語能力試験などの試験を受けたり、資格などを取ろうと思ったとき(理由：級や段という基準が日本と同じ概念であるとは限らない。さらに学習者にとって身近な日本語能力試験を例とした)
- <sup>(11)</sup> 対象者は第51番学校生徒3年生~11年生、回収数135、有効回答数118：2年生1名(0.85%)、3年生24名(20.34%)、4年生2名(1.69%)、5年生1名(0.85%)、6年生12名(10.17%)、7年生13名(11.02%)、8年生12名(10.17%)、9年生22名(18.64%)、10年生16名(13.56%)、11年生15名(12.71%)、男子学生50名(42.37%)、女子学生67名(56.78%)、不明1名(0.85%)である。シュコーラで日本語教育を行う小林修教諭に調査紙配布を依頼。各学年担当教師により配布、実施、回収が行われた。なお、1年生を調査対象としなかったのは、質問項目が、ロシア語でも難解であるという担当ロシア人教師の判断によるものである。
- <sup>(12)</sup> 対象者は日本学部1~5年生、回収数119、有効回答数116：1年生39名(33.62%)、2年生24名(20.69%)、3年生20名(17.24%)、4年生30名(25.86%)、5年生3名(2.59%)、男子学生26名(22.41%)、女子学生90名(77.59%)である。各学年担当教師に配布、実施、回収を依頼した。尚、5年生は、秋学期(9月~1月)で授業を終えており、春学期(2月~6月)は基本的に卒業論文指導のためにしか登校しないため、唯一日本語科目の授業のある日本語学・文学専攻の学生を対象に調査を行った。
- <sup>(13)</sup> 対象者は初中2年生と高中1~3年生、回収数45、有効回答数45：初中2年生12名(26.67%)、高中1年生12名(26.67%)、高中2年生12名(26.67%)、高中3年生9名(20.00%)、男子学生21名(46.67%)、女子学生24名(53.33%)である。
- <sup>(14)</sup> 対象者は学部2~4年生、回収数139、有効回答数75：2年生25名(33.3%)、3年生34名(45.3%)、4年生

16名(21.3%)、男子学生8名(10.7%)、女子学生65名(86.7%)、不明2名(2.7%)である。

<sup>09</sup> 2007年、中国における進出日本企業数は2,422、うち調査対象となった南京外国語学校と南京師範大学のあ  
る江蘇省では625であり、進出企業数は一時期増えなかったが、最近では増加傾向にある。一方、ロシアは54  
とその差は大きく、ロシアの場合、2006年には前年度の半分の増加率であった。(進出日本企業数とは、海外(各  
国・地域)に出資先の現地法人がある日本企業数である)『海外進出企業総覧 2007 国別編』

<sup>06</sup> 調査対象者は、極東国立総合大学5年生10名(男子4名、女子7名)である。対象学生は総じて日本語能力  
試験2級～1級程度のレベルを有するため、日本語でインタビューを行った。

<sup>07</sup> 調査対象者は第51番学校生徒4年生、5年生、6年生の10名(男子3名、女子7名)である。生徒に対する  
日本語でのインタビューは難しいと判断し、児童教育に関心を持ち、幼少時を日本で過ごし、日本語能力2級を  
有する極東国立総合大学学生に通訳を依頼した。

<sup>08</sup> 複数回答。

### 〔参考文献〕

ECG 編集室編『ロシア『新生ロシア』のいまどき生活(ヨーロッパカルチャーガイド 3)』(2000) トラベルジ  
ャーナル

市川伸一(1995)『現代心理学入門③ 学習と教育の心理学』岩波書店

今村和宏(1994)「極東ロシア——ウラジオストク 日本語教育事情」『月刊日本語』8月号、24-31

王淑栄(1994)「中国における外国語教育の中の日本語教育」『世界の日本語教育(日本語教育事業報告編)』4号、  
第2部(57-63)国際交流基金

木谷直之(2004)「極東ロシアの大学生の言語学習観について—海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考  
える—」『日本語国際センター紀要』第8号、95-109

国立教育政策研究所内学習意欲研究会編(2002)『学習意欲に関する調査研究:最終報告書』国立教育政策研究所

柴田俊造(1991)「東欧諸国の日本語教育—ソ連邦—」『講座日本語と日本語教育15』303-308、明治書院

下山剛編(1985)『学習意欲の見方・導き方』教育出版

下山剛(1993)『学習意欲と学習指導—生きた学力を育てる—』学芸図書

高井潔司・遊川和郎(編)(2003)『現代中国を知るための60章』明石書店

高瀬淳(2000)「諸外国の教育改革:世界の教育潮流を読む—主要6か国の最新動向—7 ロシア連邦」ぎょう  
せい、187-215

月出皎司(2001)『ロシア通になるための常識15章—ロシアは分かりにくいですか?—(増補改訂版)』アーバ  
ンプロ出版センター

東洋経済出版社編『海外進出企業総覧』(2007)10(中国・ロシア)、1684-1685(中国・ロシア)、1688(中国)、  
1690(ロシア)、1702(中国)、1754(中国・ロシア)、東洋経済出版

唐磊(2004)「中国の初等中等教育の日本語シラバスについて」『世界の日本語教育(日本語教育事情報告編)』  
第7号、29-45

21世紀中国総研編『中国進出企業一覧 2007-2008年版 非上場企業』20-21、蒼蒼社

守谷智美(2004)「日本語学習の動機づけに関する探索的研究」『日本語教育』120号、73-82

- 文部省大臣官房調査統計企画課編『諸外国の教育の動きーロシア連邦ー』（1999）大蔵省印刷局 84-104
- 林崇徳(2003)『学習与发展(修订版)-中小學生心理能力发展与培养』北京师范大学出版社
- 皮连生編(1997)『高等师范校教材 学与教的心理學(修订本)』华东师范大学
- Lyudmila Nikolayevna Lisunenko(1996)「ロシアの外国語教育の現状」『世界の日本語教育 <日本語教育事情報告編>』4号、85-92
- Sergey N. Ilyin(1996)「ロシアおよび極東における外国語としての日本語教育」『世界の日本語教育 <日本語教育事情報告編>』4号、93-104
- 『教育心理学小辞典』（1991）37、有斐閣
- 『現代教育評価事典』（1988）63-66、金子書房
- 『新教育学大事典』（1990）第1巻、353、第一法規出版
- 『新教育心理学基本用語辞典』（1982）103-105、明治図書
- 『新版 現代学校教育大事典』（2002）第1巻、319、ぎょうせい
- 財団法人海外職業訓練協会 HP
- <<http://www.ovta.or.jp/info/europe/russia/04education.html>> 2008年8月参照
- 国際交流基金日本語国際センター「日本語教育国別情報《中国》2007-2008年度」
- <<http://www.jpjf.go.jp/j/japanese/survey/country/2007-2008/china.html>>2008年9月参照
- 「日本語教育国別情報《ロシア》2007-2008年度」
- <<http://www.jpjf.go.jp/j/japanese/survey/country/2007-2008/russia.html>>2008年9月参照
- 「日本語教育国別事情調査《ロシア・NIS諸国日本語事情》」
- <[http://www.jpjf.go.jp/j/japanese/survey/country/russia\\_nis/pdf/russia\\_shore.pdf](http://www.jpjf.go.jp/j/japanese/survey/country/russia_nis/pdf/russia_shore.pdf)>2008年9月参照
- 中国外語教育研究中心 「中国外語教学改革現状發展策略研究(2000-2003)」
- <[http://www.sinotefl.com/new/news/view.asp?items\\_id=1252](http://www.sinotefl.com/new/news/view.asp?items_id=1252)>2004年12月参照

### 〔資料〕 調査Ⅰ 調査紙質問項目

尺度:「とてもやる気になる」「やる気になる」「やる気がなくなる」「とてもやる気なくなる」の4段階

設問:①成績が上がった時②成績が下がった時③テストや試験の前④授業がおもしろい時⑤授業がつまらない時⑥授業がよく分かる時⑦授業がよく分からない時⑧先生にほめられた時⑨先生に励まされた時⑩先生に叱られた時⑪宿題や作文などに先生がコメントを書いてくれた時⑫自然に触れる体験をした時⑬地域の人々と触れ合う経験をした時⑭仲のよい友達ができの時⑮ライバルが見つかった時⑯友達から励まされた時⑰友達にけなされた時⑱友達の成績が自分よりよかった時⑲自分の成績が友達よりよかった時⑳日本語能力試験などの試験を受けたり、資格などを取ろうと思った時㉑将来行きたい学校がはっきり決まった時㉒将来つきたい職業に関心を持ったとき